

教材・支援機器活用実践事例

①【時刻と時間の学習が混同してしまう児童への支援】

②【読み飛ばしによる間違いをしてしまう児童への支援】

| | | |
|----------------------|---|---|
| 子どもについて | 学校・学級・学年 | 小学校 知的障がい特別支援学級 中学年 |
| | 対象の障がい | 知的障がい、自閉症スペクトラム |
| | 授業形態 | 個別 |
| 学習上または、生活上の困難さ | 子どもの特性や教育的ニーズ | <p>説明を聞いて内容をとらえることよりも、見たものを素早くとらえることが得意である。また、気が散りやすく、ぱっと見て面倒くさそう、難しそうと思うとすぐにあきらめてしまう傾向がある。</p> <p>分かる・できる体験を積み重ね、学習に取り組む意欲、姿勢を育むことに重点を置いて指導に当たっている。</p> |
| 教材・支援機器活用 | 使用した支援機器 ・教材の名称 |  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">①付せん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">②厚紙</div> </div> |
| | 活用のねらい | <p>①は、時刻と時間の学習において、時刻と時間が混同してしまうことから、色、形の異なる付せんを用いることで、視覚的に区別し、時刻と時間のイメージが持てることをねらった。</p> <p>②は、問題を読んでいる途中、手がかりを求めて次の問題を読んでもしまうつまずきが見られたことから、厚紙を利用して、今の問題だけを見て考えられるようにすることをねらった。</p> |
| 授業における支援 ・教材の配慮事項 | <p>配慮点としては、始めに教師が使って見せて、一緒に数回やった後に一人でやるように促す。一人でできたときに称賛することを大切にしました。</p> <p>また、同じ問題を繰り返すなどして、抵抗感を減らしたり、十分慣れてきたところで、簡単な問題を付せんなしでやることにチャレンジさせてみるなどした。</p> | |
| 子どもの変容や評価 | <p>一人でできたことで、自信が持てたようだった。はじめは、教師に付せんを貼ってもらっていたが、自分で付せんを貼って記入する姿も見られた。学習内容も基本的事項は定着につながった。</p> <p>このように、自分でも簡単に準備できるような簡単な物で工夫して、自分の力で何とかできたという体験を積み重ねさせていきたい。</p> | |